



社会福祉法人 人を支える 生活を支える

佐賀整肢学園

SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

■発行日：平成 28 年 3 月 31 日
■発行元：社会福祉法人 佐賀整肢学園
■発行者：理事長 中尾清一郎
■編集：法人広報誌編集委員

学園タイムス

2016-3 Vol. **10**

Sagaseishigakuen times

社会福祉法人 佐賀整肢学園

佐賀県内を走る電車シリーズ

「九州新幹線さくら」

2011年3月、九州新幹線（鹿児島ルート）が開業しました。さくら号は新大板から鹿児島中央間を直通運転するルートと、博多駅から鹿児島中央間など九州新幹線内で完結するルートがあります。博多～鹿児島中央までは最速で1時間17分での移動が可能です。グリーン車には全席モバイルコンセントが設置されており、ノートパソコンやスマートフォンの充電を気にせず使用が可能です。また、新大板から新山口の区間はトンネル内でも携帯が使えるようになっています。快適な新幹線での旅が楽しめそうです。



巻頭言…2

REPORTS…3・4

事業所紹介…5

事業所 TOPICS…6・7

タイムス特集…8

学園 FOCUS…9

局長随想 リレーコラム…10

ボランティア・施設見学・実習状況 みどころ…10



正解のない社会に向き合う

社会福祉法人 佐賀整肢学園
理事長

中尾 清一郎

なぜテロは繰り返されるか

20世紀は「戦争の世紀」であり、そのあまりに犠牲の多さに人類は「抑止力」や「国際世論」「民主主義社会」という知恵を編み出した。第2次世界大戦後、アメリカ・ソ連の冷戦下で人類は核戦争の恐怖におびえていたが、その懸念は幸いにも遠のいた。アメリカと同じくらい強大で盤石だと思われていたソ連があっけなく崩壊したのは意外だったが、冷戦が終われば世界は平和になるはずだった。

私たちの暮らす21世紀はアメリカの9・11（同時多発テロ）によって最悪のスタートを切った。理性を失った超大国は姿の見えないテロリストやテロ支援国家、とみなした相手にやみくもな攻撃を仕掛け、日本を含む同盟国もそれを支持した。現在、テロの恐怖にさいなまれるのはイスラム世界だとの認識があり、従ってイスラムへの偏見、憎悪も根深い。ただ、7世紀におこったイスラム教は絶対神の前の平等を読み、異教徒に寛容で瞬く間に西はイベリア半島（スペイン）から東はインド、中国内陸部にまで勢力範囲を広げた。ヨーロッパは長い間イスラム世界に文化・経済・軍事力で劣っていた。それが逆転したのは産業革命によってであり、イスラム優位の時代は少なくとも500～700年に及ぶが欧米優位の時代はたかだか200年ほどに過ぎない。

欧米の帝国主義、裏切り

近代化によって強力な軍事力を手にした「欧米列強」は手近な中近東はもとより、アジア、アフリカ、そして幕末の日本にも干渉した。不毛の地であるアラビア半島やペルシャ湾岸が原油地帯であり、しかもイスラムの聖地メッカ、メディナを擁することは歴史の皮肉としか言いようがない。第1次世界大戦で優位に立ったイギリス、フランスは表面的にはアラブの諸民族独立を支持しながら、ドイツ・オスマントルコ連合敗北後の中東分割を企んだ（サイクス・ピコ協約）。一方、パレスティナヘユダヤ人国家樹立を目指す「シオニズム運動」にはアメリカやイギリスのユダヤ系大富豪やジャーナリストが強い支持を表明した。このような二枚舌外交は中東の人々にしてみれば欧米諸国（キリスト教徒）が好き勝手に振る舞ってきたとしか考えられないだろう。しかも冷戦時にアメリカはソ連に対抗するイスラム過激派（若きビン・ラディンもいた）やイラクのフセインに武器や資金援助を行っている。いわゆる西側の報道にしか接しない我々は、イスラム圏の人々の感情に寄り添うことが難しい。ISIS（イスラム国）など狂信者集団だが、彼らがアメリカやフランスの空爆に対して「空軍を持たない我々は敵の心臓部でテロを敢行する」と宣言することはイスラム社会に一定の説得力を持つのではないだろうか。そのような時代に、日本はどのように振る舞うべきだろう。集団的自衛権や憲法改正が議論される今、政治を人ごとにしておいてはいけぬ。

大臣
表彰

社会福祉功労者に対する厚生労働大臣表彰

平成27年度社会福祉功労者に対する厚生労働大臣表彰について、かんざき日の隈寮の江里口忠雄施設長、こども発達医療センターの大島京子看護部長の2名が受賞されました。11月20日に日比谷公会堂で開催された平成27年度全国社会福祉大会において表彰式が執り行われました。この表彰は、社会福祉事業に永年従事している者であって、その功績が特に顕著であると認められるものに対して行うもので、社会福祉事業従事功労者300名のうち、佐賀県からは5名の方が表彰を受けられました。



江里口 忠雄

昭和48年 入職
平成8年 こども発達医療センター
業務課管財係長
平成10年 同 通園療育課係長
平成15年 同 総務課管財係長
平成18年 同 総務課副課長
平成21年 かんざき日の隈寮 副施設長
同年 かんざき日の隈寮 施設長
この賞に恥じないよう今後とも利用者の皆さんの幸せのために邁進いたします。



大島 京子

昭和45年 入職
昭和62年 こども発達医療センター
療育課看護係長
平成5年 同 療育課課長
平成9年 同 総看護婦長
平成12年 同 看護部長
永年勤務させていただき、このような賞まで賜り感謝申し上げます。

避難
訓練

平成27年度 原子力防災避難訓練（かんざき清流苑）

平成27年11月28日（土）に玄海原子力発電所の緊急時に備え、原子力防災訓練を行いました。（佐賀県主催の原子力防災訓練に併せて実施）

かんざき清流苑は今年度に玄海原子力発電所から30km県内に立地する、養護老人ホーム伊万里向陽園と「原子力災害時における協力に関する協定書」を締結（佐賀県老人福祉協議会にて県内の老人福祉施設をマッチング）しており、今回の訓練では、伊万里向陽園入所者8名の避難受入訓練を行いました。避難手段は伊万里向陽園の車両で行われ、入所者受入時の対応等を行いました。避難車両から、指定避難所までの誘導、人員確認等、参加された入所者の方々も真剣に取り組まれておりました。

また、平成26年度に続き今年度も、佐賀県高齢者福祉施設災害時避難車両整備時事業にて、リフト付き車両を整備致しました。（清流苑、向陽園各1台）今後も緊急時に備え、法人内事業所や関係機関と連絡調整を行いながら、防災に取り組めます。



地域 貢献

生活困窮者就労訓練事業・ 消防団協力事業所認定

佐賀整務学園では、社会福祉法人が担うべき地域における公益的な取り組みとして、かんざき日の際寮を中心として生活困窮者就労訓練事業を開始しました。この事業は、長期離職者やニート、引きこもり、精神疾患を抱える方など様々な理由で働きづらく生活困窮状態にある方を対象とし、自立相談支援機関からのあっせんにより利用が開始されます。事業所側は就労の機会を提供し、就労に必要な知識及び能力向上のための必要な訓練を行い、さらには生活面や健康面での支援を行います。個々に応じたステップアップを経て、最終的には一般企業での就労につなげることが目標です。

現在かんざき日の際寮では、年間延べ1,300人の入所者が就労支援活動に参加されています。内容は、屋内作業（施設内清掃、エアコンフィルター清掃、ワックス作業等）や屋外作業（除草作業、外壁・窓清掃、剪定作業、農作業等）の軽作業です。この活動に合わせて事業を展開することで、利用者の個性や事情に合わせた多様な働き方を提供できると考えています。



ワックス作業の様子



消防団協力事業所
認定証

また、こども発達医療センターでは11月に佐賀市より消防団協力事業所の認定を受けました。これは地域の消防団活動への積極的な協力として、職員の消防団への入団や勤務上の配慮、災害時における人的応援や資材の協力など、地域の消防防災力の充実強化に事業所として取り組むものです。

利用者がいきいきと働くことができる就労環境の整備と、就労を通しての地域社会とのつながり、または地域で生活されている方々の安全・安心のための行政との連携など、当法人が掲げる「人を支える、生活を支える」を実践すべく、幅広く地域貢献を継続していきたいと考えています。
(かんざき日の際寮 小柳淳人)
(こども発達医療センター 田中邦典)

施設 開設

医療型障害児入所施設開設 (からつ医療福祉センター)

平成28年2月に医療型障害児入所施設を開設しました。アルトンは平成24年4月に重症心身障害児施設から療養介護事業所に新法移行をしました。その当時は18歳未満の入所者が少なく、大人の入所者がほぼ全体を占めていました。そこで新法移行にあたり大人の施設に移行したわけですが、その後の状況で他の重症心身障害児施設は経過型として障害児の受け入れを行っていました。

新法移行でアルトンは大人の療養介護事業所になりましたが、短期入所などを利用して在宅の障害児の支援を行ってきました。その中で重症心身障害児の入所先が少なく、家族の方から入所が難しいと言う話を聞きました。特に動く重症心身障害児と言われる障害児は受け入れ先が無いと相談を受けました。

そこで、平成27年4月に佐賀県に医療型障害児入所施設を検討していると伝え許可を申請しました。アルトンの定員を増床して障害児の受け入れを対応したいと伝えましたが、佐賀県としては国の方針で新たな入所施設は難しいとのことで申請は難航しました。センターの働きかけとあ



わせて、家族の方から「佐賀県北部地域で障害児を受け入れてほしい」との趣旨の要望書が提出され、ようやく県の許可をいただくことができ、家族の方も大変喜ばれました。

平成28年1月に医療機関として46床に増床して、療養介護事業所の定員も39名から45名に変更するなど準備をおこない、平成28年2月に医療型障害児入所施設の許可が下りました。今後は18歳未満の重症心身障害児の入所が可能になり、佐賀県北部地域の障害児支援を考えながら制度的にもスムーズな入所が可能ないように支援していきたいと思っています。(からつ医療福祉センター 浦川高紀)

事業所紹介

佐賀整肢学園子ども発達医療センター

医療型障害児入所施設 **ひまわり園**

療養介護事業所 **たんぽぽ園**

旧肢体不自由児施設、旧重症心身障害児施設です。

平成24年4月、法改正に伴い、医療型障害児入所施設と療養介護事業に移行しました。一体的に運営しており、施設毎に建物があるわけではなく、実態は同じ建物内で、入所者の状態に合わせ、4つの病棟に分かれて生活されています。1つの病棟に医療型障害児入所施設の入所者と療養介護事業所の入所者が混在されている状況です。

医療型障害児入所施設ひまわり園、療養介護事業所たんぽぽ園あわせて160床で運営しておりましたが、長期入所待機者だけでなく、手術等の治療に伴う有期有目的の入所者・待機者の増加があり、満床状態が慢性的に続いていたことから、平成28年2月1日より、170床へ増床となりました。



医療型障害児入所施設 ひまわり園

児童福祉法に基づき、18歳以下の肢体不自由児、重症心身障害児、又は児童相談所等により療育の必要性が認められた児童が入所し、疾病の治療・看護、医学的管理の下における食事・排せつ・入浴等の介護、日常生活上の相談支援・助言、身体能力・日常生活能力の維持・向上のための訓練、レクリエーション活動等の社会参加活動支援などを行います。

医師・看護師・訓練士・保育士・介護福祉士・児童指導員・生活支援員・MSWなどのチームで利用者一人ひとりの症状に応じたケア、疾病の治療・身体能力の向上をめざす療育を行い、医療的行為が必要な超重症児や術後児も一緒に活動できるよう積極的に支援しています。

現在、3歳～18歳までの方が入所されており、近年、手術等の治療に伴う有期有目的や年単位での入所者が増加し、常に待機者がいらっしゃる状況です。



療養介護事業所 たんぽぽ園

障害者総合支援法に基づき、18歳以上で、障害程度区分5以上の方(主に重症心身障害者の方)に医療の提供だけでなく、福祉サービスを提供し、より豊かで広がりのある療養生活を送っていただくための長期入所施設(事業)です。

医師・看護師・訓練士・保育士・介護福祉士・生活支援員・MSWなどのチームで利用者一人ひとりの症状に応じたケアをおこない、身体能力の向上、生活が楽しく、充実したものになるような療育をめざします。身体機能や情緒の状態、趣味・嗜好を勘案し、日々の生活に変化・刺激をもたせ、さまざまな制作活動や季節ごとのお楽しみ会などを取り入れています。利用者の皆様に日々の生活を心地よく過ごしていただけるように支援しています。

現在、19歳～69歳、110名ほどの方が入所し、生活されています。



星野仙一杯争奪第5回西日本肢体不自由児ティールボール交歓大会 11月 こども発達医療センター

11月3日(火・祝)、岡山県岡山市の岡山ドームで開催された西日本肢体不自由児ティールボール交歓大会に参加しました。この大会には昨年引き続き2回目の出場であり、出場チームは中国(岡山・広島・島根)・四国(愛媛・香川)・九州(佐賀)から6チームで、ゴールデンドラゴンス(当センターのチーム名)からは小学校



2年生から高校3年生までの児童10名と職員で参加しました。今大会では得失点差で5位であったものの、2勝1敗という結果を残すことができました。試合ではキャプテンの「いくぞー!」という掛け声で始まり、試合中はみんなが声を出し合い、チームワークで勝利を目指す姿がありました。昨年は0勝3敗の6位という悔しい結果であったため、まずは1勝を目標に日頃から週1回の練習に励み、その成果を発揮できたのではないかと思います。初勝利に涙を流す児童と職員の様子もあり、勝負をして感じた勝つ喜びや負ける悔しさは、これからの人生において大切な経験になったのではないのでしょうか。第6回大会にむけて全勝優勝を目標に日頃の練習を行っていきますので、これからも応援よろしくをお願いします。(今井康大)

クリスマス会・ハンドベル演奏12月 オークス



12月15日(火)にオークスクリスマス会を行いました。オークスクリスマス会では毎年、いろいろな方をゲストとしてお招きしています。今年は佐賀女子高校のハンドベルリingersの皆様にハンドベルの演奏をして頂きました。

演奏が始まると、どの利用者様もハンドベルの音色に聞き入り、クリスマス気分を味わわれている様子が伺えました。クリスマス定番の曲から、最近の曲まで幅広く演奏して頂きました。知っている曲が演奏されると、笑顔で口ずさんでおられる方もいらっしゃいました。

感想を伺うと「音色が綺麗だった」「また、来年も来てほしい」と、演奏会を楽しんで頂けたようでした。ハンドベルの優しい音色が癒やしのひとときとなった様子でした。(原恵里香)

グループホームカフェ

かんざき清流苑

利用者様と職員で作った料理を他部署職員へ振る舞う「グループホームカフェ」を開店しました。書道教室時に当日のメニュー書き、チケットの色塗り、野菜の皮むき、材料切り、団子作り、盛りつけなど準備から手伝って頂きました。入り口には皆さんが料理長になられた看板を設置して、開店するとエプロン、三角巾姿で50名程の職員に大鍋からつぎ分けてくださいました。利用者様発信の行事は初の試みでしたが、「もうちょい、ついでよろか」「はい、どうぞ。美味しかよ〜」と、イキイキと楽しんでいる表情を見る事ができ、職員にも大好評だったので今後も開店していきたいと思っています。

利用者様にとって一連の行為全ては困難でも部分的に可能な行為は多いので、利用者様が可能な事と支援が必要な事を見極めながら手伝って頂いています。利用者様に手伝って頂いた時は職員からしっかりと感謝の気持ちを伝え、役に立っている事を実感頂けるよう言葉かけを行っています。これからも「楽しいね〜」「美味しいね〜」と感じてもらえる「人としての生活」を大事にできる支援をしていきたいと思っています。(御厨彩子)



事業所 TOPICS

(11月～1月)

成人を祝う会

1月

からつ医療福祉センター

アルトンでは毎月1回全体レクリエーションを実施しています。1月は、毎年恒例の紅白歌合戦を実施しています。

今年は、6年ぶりにめでたく1名の方が成人されましたので、歌合戦の前に祝福するセレモニーを行いました。ワイシャツ、ネクタイ、スーツを着て皆様にお披露目すると、普段なかなか見る事のない凛々しい姿に「成人おめでとう!!」

「かっこいい!!」などの歓声が上がリ、ご本人も満面の笑みを浮かべておられました。

お祝いの言葉、本人による感謝の言葉、成人の誓いと会が進みその後、職員と記念撮影を行いました。病棟内が温かな祝福の拍手と笑顔に包まれました。

後日、ご家族が当日の写真を見られ、我が子の晴れ姿をととても喜びになっておられました。(稲井隆文)



日の隈温泉

1月

かんざき日の隈寮



かんざき日の隈寮では、連休期間中に施設内で過ごされる方を対象とした日の隈温泉を実施しています。「休職中に温泉に行きたい」という利用者の希望から始まった、大人気の行事です。

毎回、湯布院・別府・登別・南国などテーマを変え、お湯の種類や飾り付け等の演出にもこだわっています。入浴後にはコーヒー牛乳やジュースを提供し、美容パックやマッサージ

ジでくつろいでいただいています。職員もアロハシャツや法被に着替え、日常とは違う雰囲気支援を行っています。毎回好評の日の隈温泉、これからも利用者の方に喜ばれ、またやって欲しいと要望の出る企画作りを行っていきたく思います。(田中貴大)

利用者から職員への感謝会

12月

佐賀向陽園・わいわい

平成26年度より、利用者様からのご提案で、年末に職員への感謝会を開かれ、利用者様の郷土の雑煮やぜんざい等、手作りの料理を振る舞って頂き、職員との関係をより深める時間となっています。

以下に主催された利用者様である藤巻美江様からのお手紙を一部抜粋して掲載致します。

『向陽園に入居して8年になります。以前は施設の食事で、餅の雑煮を食べていたのですが、ここ2～3年前から年老いていく利用者様の体調を考えて餅ゼリーの雑煮になりました。

私は、北海道の札幌で生まれ育ち、62歳の春に娘のいる佐賀に移住することになり、佐賀の郷土の味を楽しみにしていましたが、娘は札幌で30年間過ごしていた頃の祖母の味を忘れずに作っているらしく、正月には郷土の札幌風の雑煮を食べられて嬉しかったことや、娘の手料理をゆっくり初めて口にして美味しかったのを覚えています。

そのような中、どうしてもお餅の雑煮を食べたく、職員さんに手料理の振る舞いという形で提案したところ、札幌風の雑煮を作ってみてもよいのではとの声も受け、職員さんと一緒に久しぶりに包丁を手に取り、食材購入から調理まで怪我をすることもなく、味付けも満足できるものが作れました。それを施設長さん始め、職員さんに食べて頂き、美味しいとお替りをして頂いたことがとても嬉しかったです。他の利用者の方が作られた佐賀風の雑煮も食べることができて、とても美味しかったです。

いい思い出の一つになり、職員さんに喜んで食べられたことに感動しました。ありがとうございました。』

これからも日常生活支援を行う中で、利用者様との共有感を深め、様々な体験を積み重ねながら、利用者様の生活がより豊かなものとなるよう支援していきたくと思います。(早川清十郎)



タイムス特集

平成27年度から装いも新たになった「学園タイムス」。皆さん楽しんでいただける読み物を目指して、今年度の取り組みをご紹介します。

①デザインの刷新

全体の色調を、目に優しい緑で統一しました。本文の原稿も、余白を小さくし、これまでよりも行間を狭く、文字数を多くすることで、読み物としての内容を充実するようになっています。

②表紙の公募

表紙を飾る写真は、年度のテーマを決め職員に公募をしました。平成27年度のテーマは『佐賀県内を走る電車シリーズ』。「ななつ星」「ロマンシング佐賀ラッピング列車」「ハウステンボス号」と続き、最後を飾る今号では「九州新幹線さくら」が採用されました。写真が採用された職員には、記念品を贈呈させていただいています。



かんざき日の隈察
小柳さん

からつ医療福祉センター
西村さん

オークス
吉原さん

平成28年度の表紙写真のテーマは『佐賀の史跡シリーズ』。「吉野ヶ里遺跡」や世界文化遺産に登録された「三重津海軍所」など、まだまだ隠れた史跡が佐賀にはいっぱいあります。写真の腕前はもちろんのこと、知識も求められますよ！次号からはどんな写真になるでしょうか。どうぞご期待ください！

③タイムス特集

特集コーナーでは、真面目な内容から柔らかな内容まで幅広く特集していきます。新しい取り組みとしては『さが彩発見』と題して、銘菓や伝統行事、特産品など、隠れた佐賀の魅力を発信していきます。職員の皆さんも、特集して欲しい内容や、『さが彩発見』で取り上げて欲しい佐賀の魅力があれば、ぜひ各事業所の編集委員までお寄せください！

④学園 FOCUS

佐賀整肢学園で活躍する様々な人に焦点を当てる『学園 FOCUS』。面白い読み物を目指して、毎月掲載の新企画としてスタートしました。

「法人の中にこんな人がいるんだ」「あの人の意外な一面を見た」など、多くの反響をいただいております。今後もどんどん職員の皆さんの魅力的な一面に FOCUS していきたいと思っております。

スポットライトに当たりたいあなた！『あの人のすごい一面をもっと知ってもらいたい』というあなた！自薦・他薦は問いませんので、各事業所の編集委員までどしどし情報をお待ちしております。

⑤リレーコラム

職員の皆さんでコラムのリレーをしています。基本的にコラムを書いていただいた方に、次の方を指名してもらっていますので、意外な人脈や職員のつながりを垣間見ることが出来ます。次の号は誰でしょうか？もし指名がきたときは、快く引き受けてくださいね！

『佐賀県内を走る電車シリーズ』その他の応募写真（一部）

ご応募ありがとうございました！



黒いかもめ



白いかもめ



九州新幹線つばめ



JR長崎本線



松浦鉄道



特急みどり

ご感想やお問合せ、応募先、タイムス特集のご要望、学園 FOCUS の自薦他薦は、各事業所の編集委員までどうぞ

編集委員一同

- ども発達医療センター
田中 邦典 林田 五月
- オークス
中原 健太
- かんざき清流苑
坂井 善浩 福成 麻里
- からつ医療福祉センター
佐藤 崇 大田加代子
- かんざき日の隈察
田中 貴大
- 佐賀向陽園・わいわい
早川清十郎 江頭 和輝

学園 FOCUS

佐賀整肢学園で活躍する様々な人に焦点を当てる「学園 FOCUS」。

今回は、からつ医療福祉センター久里双水園入所サービス課で生活支援員として勤務されている井上ゆかりさんに、趣味として幅広く楽しまれている歌うことについてお話を伺いました。

Q いつ頃から歌が好きになりましたか？

A 子供の頃から歌が好きで、良く歌っていました。自分で歌った歌を録音してよく聴いていました。物心ついた時に友人達から「上手だね」といってもらえるようになり、そのことでもっと歌が好きになりました。

Q どういった機会に歌われていますか？

A 夏祭りなどの施設の行事や、プライベートでは一人でカラオケに行ったりしています。時々友人のイベントに誘われてミニライブ等にも参加しています。

Q NHKのど自慢に出られたそうですね。ぜひ感想をお聞かせください。

A きっかけは職場の同僚が、歌が上手だからと応募してくれたことでした。最初は乗り気ではありませんでしたが、抽選に当たり、予選を突破することができました。職場の同僚が応援にも駆けつけてくれて、みんなの応援があったからこそその本番だったと思います。本番も3つ鐘を鳴らすことができて嬉しくて感動しました。出演をきっかけに歌が好きな方とも交流が広がり、イベントにも誘いを受けたりしています。テレビを見てくれた友人や同僚、利用者の方に声をかけてもらい、恥ずかしくもあり嬉しくもあり挑戦してみてもよかったと感じています。そんなきっかけくれた職場の仲間感謝しています。



いのうえ
井上ゆかりさん

からつ医療福祉センター
久里双水園サービス管理部
入所サービス課

Q 上手く歌うコツや歌うときに意識されていることはありますか？

A おなかから声を出すことと、強弱をつけるように意識しています。最近になって聞いてくれる人から、「気持ちがかもっている」と言ってもらえるようになり、より一層歌に対し興味がわくようになりました。上手く歌おうと思わず、自分が好きな歌を気持ちをこめて歌うことが一番だと思います。

Q 最後に一言お願いします

A 歌を通して今後も色々な方と出会いながら、楽しんで行きたいと思います。



NEXT…佐賀向陽園・わいわいのあの人に FOCUS !!

局長随想 休眠打破

今年も桜の開花が各報道機関のニュース番組で大きく取り上げられる時期を迎えた。

「サクラの開花日」とは、各地の気象台が定めた標本木で、5～6輪の花が咲いた状態となった最初の日を言うらしい。あるTV番組では、東京の靖国神社の標本木の開花宣言の様子映してはいたが、発表する気象台職員を取り囲む見物人の多さに驚いた。それだけ、桜の開花は日本人にとって大きな関心事となっているのだろう。以前、和歌山県に旅をした折、たまたま開花発表したばかりの紀三井寺の桜に遭遇したことを思い出していた。

桜は夏に翌年の春に咲く花芽を形成し、それから「休眠」という状態に入るが、休眠に入った桜は冬の間に一定期間、冷気にさらされることにより、休眠から目覚め、開花の準備を始めるが、このことを「休眠打破」というそうだ。そして、その後の気温の上昇とともに花芽が成長して開花に至るとのことだが、冬暖かすぎると春先の気温が高くて開花が遅れることもあるようである。

ところで、社会福祉法人制度は、1951年（昭和26年）に社会福祉事業法（現社会福祉法）が制定され創設された。既に制度創設から65年が経過しようとしているが、いま制度改革の冷たい嵐に吹きさらされている。先行した公益法人改革の後を、そのままとった様な制度改革を、平成28年度から29年度にかけて行うため、社会福祉法等の改正案が現在開会中の国会に提出されている。この法改正によって、社会福祉法人は、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、公益的取組みの義務化といった一連の取り組みが課せられる。多くの社会福祉法人にとって、未体験ゾーンへ突入することとなる。我々社会福祉法人職員は、これから始まるだろう厳しい期間を、社会福祉法人にとっての「休眠打破」の期間と受け止め、桜が「休眠打破」の後に満開の時季を迎えるように、法人制度の充実に発展に向け、しっかりと準備し対応を図っていかないと考えている。

Relay Column



オークス
入所・在宅サービス課課長
いわせ しずな
岩瀬 静奈

涙の理由

昨年10月、タイ・チェンマイスタディーツアー車いすプロジェクトに参加させて頂きました。

オークスの利用者が使用しなくなった車椅子5台を地元小学生が磨き、現地の病院に届けたり、直接利用者の方に届けたりしました。このプロジェクトには様々なスタッフがかわっており、皆さんとても温かい方ばかりです。そのスタッフにお会いするとなぜかいつも涙が溢れてくるのです。涙の理由はこの仕事に就くと決めたときの初心を思い出させてくれる、奥深い優しさをスタッフの方々がかもしだされているからでしょう。私も、その深い優しさを少しでも持ち続ける事が出来るように、そして気取らず飾らずさりげなく周囲の方々に優しさを届けられるように努力したいと思っています。

今回1週間の休みを快く認めてくださった職場の皆様、またこのスタディーツアーで初心を思い出させてくださった方々に深く感謝いたします。

NEXT…かんざき清流苑のあの人にバトンタッチ!!

平成 27 年 11 月～平成 28 年 1 月

- 協力ボランティア**
- 【子ども】 SVC様 金立地区鍾浮立保存会様 親和会様 佐賀整肢学園友の会様 佐賀県神道青年会様 高木運香様（読み聞かせ）
なでしこの会様 イオン柳橋 関佐電工様 西日本高速道路メンテナンス九州柳橋
 - 【オークス】 佐賀信用金庫尼寺支店様 若宮原長会様 若宮婦人会様 佐賀女子高校様
 - 【清流苑】 聖霊園ふれあい訪問課 音楽愛好会様
 - 【からつ】 折尾幸子様（リノ教室） 川打留子様（書道教室） 加藤万里子様（民謡教室） 田村静二様（絵画教室） 津井白正様（陶芸教室） 辰野真由美様（手芸教室）
 - 【日の隈】 山崎節子様（日舞クラブ） 三好富美子様（生花クラブ） 久保田美保様（ヨガ教室） 西九州大学ボランティア様 小桜保育園様
 - 【向・わ】 佐賀少年刑務所様（訪問理由）、金立町社協様（楕圓ボランティア）、佐賀栄城ライオンズクラブ様（餅つき訪問）、高志路高校（清掃）、九州電力佐賀営業所（電気関係清掃）
-
- 施設見学来訪**
- 【子ども】 別府発達医療センター14名様 佐賀市医師会看護専門学校95名様
 - 【オークス】 伊万里市役所3名様 佐賀市相談窓口3名様
 - 【からつ】 唐津特別支援学校3名様 伊万里特別支援学校20名様 唐津市立大志小学校4名様 社会福祉法人春陽会2名様
めぐみ厚生センター指定特定事業所カノン1名様
 - 【向・わ】 佐賀県地域定着支援センター様
-
- 実習生受入**
- 【子ども】 西九州大学社会福祉学科1名
 - 【清流苑】 佐賀向陽園3名 北陵高校2名 佐賀女子高校14名
 - 【からつ】 唐津特別支援学校1名

見どころ

法人広報誌学園タイムスは今号で10号目を迎えました。創刊号から約2年間、法人各施設から選出された編集委員は、ほぼ毎月編集会議を開催し、メールでやりとりを行い編集作業を行っております。記念すべき10号も内容盛りだくさんですが、私自身事業所トピックスを毎回楽しみにしています。今後も皆様読んで楽しい紙ベースの読み物を提供していければと思っています。

